

所 報 研究所だより

教育・しまんと

令和4年度
NO. 5

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地
Tel/Fax (0880) 37-2817
ふれあい学級(0880) 31-1130

★ 二学期がスタート！

一部の中学校は、8/29から二学期がスタートしています。9/1からは、市内全ての小・中学校で二学期がスタートしました。

それぞれの学校には、少し日焼けをし、たくましさを感じさせる子ども達の歓声が戻ってきたのではないかと思います。

今年の夏休みも真夏日や猛暑日が続く、熱中症等に気を付けるとともに、新型コロナウイルス感染症拡大に気を配りながらの日々ではなかったかと思います。

9月になってからもその傾向に大きな変化はなく、引き続き感染症対策を講じながら、教育活動を推進していく日々になると思います。

9月の第二週からは、体育祭・運動会、続いて教育文化展、そして各教科の「授業づくり講座」や指定研究会の発表等々、各種行事が計画されています。

児童生徒の安心・安全を確保するとともに、教職員の体調管理にも留意しながら、教育活動の実践、充実に努めていただきたいと思います。

今学期も教育研究所の研修会、諸行事等にご支援ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

★「教育講演会」から

少し時間が経過しましたが、7月29日(金)の午後日程で開催した教育講演会では、元阪神タイガースの抑えの切り札として大活躍された**藤川球児さん**を講師に迎え、**267名の教職員関係者の参加**を得て、無事開催することができました。ご協力に感謝申し上げます。

本年度の教育講演会は、**生涯学習課とセットの形**を取り、**午前中は球児さんによる「少年野球教室」を開催**しました。幡多管内から野球未経験者も含めて90名程の子ども達が四万十スタジアムに集合し、バッティングやピッチング、キャッチボール等について、具体的で分かりやすい指導を受けていました。

初めのうちは緊張していた子ども達も、球児さんからの温かい声かけに徐々に表情も和らぎ、中盤から後半にかけては、動きが活発になり明

らかにプレーの質に向上が見られる子ども達の姿がありました。

終了後には、参加者一人ひとりに藤川さんからのサイン入り色紙がプレゼントされ、喜々として帰る子ども達の姿がありました。記念に残る野球教室になったことだと思います。

そして**午後からの教育講演会**では、コーディネーター**濱田亜弥さん**の進行により、「トークショー」引き続いての「パネルディスカッション」では、私達が現役時代に目にすることが多かった**藤川さんの活躍の裏に隠された秘話**も紹介され、**肉体的・精神的な苦悩や家族の支え、かわった指導者からの声掛け等々、広くて深いお話をお聞きすることができました。**

「パネルディスカッション」では、教職員代表で**井上翔太教諭(具同小)**と**大久保忠仁教諭(中村中)**に**パネラーを務めていただきました。**

それぞれに個性を発揮され、自分の想いを自身の言葉で率直に表現していただいたことで、それに対する藤川さんの対応も、温かいボイスシャワーをかけていただいたり、時にはウィットに富んだ表現で面白おかしく返していただいたりと、藤川さんの一言ひとことに、うなずきや納得、笑顔や笑い声が絶えまなく広がり、会場全体を温かく包み込んでいました。

また、フロアーからの質問に対しても、実体験に基づいて丁寧にお答えしていただくとともに、これからは、「シーズンスポーツ」という視点で、一年間の中で、季節・期間毎に異なるスポーツを体験し、結果として自分自身の生涯スポーツに結び付けていくということも考えられるのではないかと意見も提起していただきました。

講演内容全体を通して、「**野球(スポーツ)を通して子ども達に育ませたいものとは…**」～子ども達に“夢”や“希望”を抱かせるための大人のかかわり方～という主題、副題に迫るお話しが拝聴できたのではないかと思います。

各学校におかれましては、各種の研修会等が設定されている中や新型コロナウイルス感染症

拡大が危惧される中での開催にもかかわらず、参加にご協力いただきありがとうございました。

この後、各校からの振り返りを項目毎に記載しております。事務局としては今後の教育講演会の企画・運営に生かしていくとともに、テーマに特化した講演内容のご意見ご感想に関しては、各校でも参考にさせていただき、二学期以降の実践に生かしていただければ幸いに思います。

★「教育講演会」の振り返りから

＜ ○:肯定的評価 ●:ご意見、課題 ＞

【 期日について 】

- 適当である。今年のように夏季休業中の早い時期が良い。午後日程も良い。来年度もこの時期でよい。時期的にも時間的にも丁度よかった。
- 講師の都合もあったろうが、コロナ増加が懸念される中で、この日に集めて行う必要があったのか。リモート配信でもよかったのではないか。
- 月末の業務に支障があった為、可能なら月末開催でない方が良い。

【 日程について 】

- 適切だった。
- 開始時間が遅めだった（14 時～）ので余裕を持てのぞむことができた。
- 午前中の部会とセットにし、午後から教育講演会を行う流れは効率的でよい。
- 時間的にも丁度。2 部制であったので集中して聴けた。
- 終了時刻がかなり遅くなったので、困った人がいたのではないか。
- 講演会なので終了時刻は「伸びる可能性有り」ではなく、きちんと設定して守るべきだと思う。
- 16：30 くらいで終了だと年休を取らなくて済む。
- 事前の終了時刻に合わせて年休対応していたが、終了時間がオーバーした。年休取得をしなくて良いような日程にできないか。終了時刻を計画通りをお願いしたい。
- 終了時刻を大幅に過ぎたので、開始時刻を

早くするか、終了時刻を遅くするか等の工夫をし、16：45 に終了できるような時間設定にしていきたい。

- 予定としては良かったが、終了時刻が大幅に延長となったことが残念だった。（16 時終了予定の為、年休を取得していた教職員が多数いた）
- 終了時刻が予定より 40 分オーバーしました。急に延長されたのかもしれませんが、事前に 1 時間年休を取得している教職員が多くいたので、この年休は必要なかったと思ったことでした。
- 16 時終了予定が 30 分近く大幅にずれ込んだので改善が必要。準備していたが質疑の数を減らす等の臨機応変な対応が必要。
- 終了時刻を 4：30～4：45 になるように開始時刻を設定していただければありがたい。
- 予定時間より長くなったので、予定通りにしてほしかった。
- 終了時刻を勤務時間と同じくらいにしてもらえるとよい。

【 会場について 】

- 学校指定の座席にも余裕があり、間隔をあけて座り密を避けることができたことで、落ち着いて参加することができた。
- 会場で密になる心配があったが、間隔をあけての着席等感染対策が十分だった。
- アクセスもしやすく密にならない広さの会場で良かった。席の間隔も確保することができ、空調も十分効いていて快適に聞くことができた。退場の仕方も前方、後方と分けられていてよかった。
- 駐車場は近くでよかった。
- 駐車場が遠い。猛暑日では熱中症の不安が多少ある。コロナの感染状況を考慮し、基本は会場で参加、自身やご家族等、身体的な面を気にされる方は、各所属校からの参加等、選択肢があっても良いのでは。
さらに、座席の感覚や換気等の感染対策がもう少しあればよかった。また、待ち時間等に会話が多かったのが気になった。マスクはしているが意識の低さを感じた。

- 感染対策として座席を一つ飛ばしにする等の配慮が必要ではなかったか。各校別に分けるのであれば、席をもっと多めにとってもらいたかった。後方の席に余裕があったので。
- 場所によって密になっているのが気になりました。(後方席が空いていたので、距離を取って座りましたが)
- 密になることは心配した。
- 時期的にはリモートで良かったかとも思う。今回の会場が気になる。

【講演内容について】

- 子どもに「夢」や「希望」を抱かせるには、まず教師が夢を持ち、前向きな声掛けをすることが大切だということが分かった。講師の人柄の良さが伝わってくる興味深い講演会だった。
- 夢や希望を持ちにくい世の中の状況と、今の子ども達の様子にぴったり合ったテーマでよかった。また、前向きに何にでもチャレンジしてきた方なので、その分、不安や恐怖とも戦ってきたという人間らしい部分についても話してくださったことがとても良かった。教師としての在り方をもう一度考えるきっかけになった。
- 講演会の構成が二部になっていて、進行役やパネラーがいたことで、通常の2時間講演より興味を持って聞くことができた。
また、子ども達に夢や希望を抱かせるためには、自分の目標を人に伝えたり、書き出したりして達成させていく経験を積み重ねることが大切だと思った。
さらに、何事も出会いが大切だと感じた。自分自身も子ども達も様々な環境や人々に触れることで夢や希望を抱き、生きることが楽しく感じるようになると思う。地域や人々に触れられる時間を授業に設け、出会いを増やしていきたいと思った。
- 講師がスポーツ関係者でしたが、テーマが絞られていてよかったことと、講師自身の体験から出た言葉には力があり、前向きな思いが持てた。
- 夢を抱かせるにあたって、知らなくても良いことまで知ってしまう今の社会だからこそ、その難しさがあることにはとても共感できた。

教員としての関わり方を考える良い機会になった。

2部構成の形も良かったし、パネラーの悩みから藤川さんの考えも引き出せており充実した内容になっていた。

- 夢を持っていない、持っていて自信がなくて言えない子ども達に対して、教員としてどう接していけばいいか経験を踏まえてお話ししていただき、とても勉強になった。

たくさんの経験をすることや自分で選択し決定し行動することが大切だと分かった。情報が多く視野が広がりすぎて、悩んでしまっている今の子ども達に夢を抱かせるようなヒントを与えたり、背中を押してあげたりできるような教員になりたいと思った。

プロで活躍された選手の話に対談形式で聞くことができ聞きやすかった。直接質問もでき貴重な体験ができた。

- 藤川さんの体験や考え、子どもへの思い、夢や将来のこと等、熱い気持ちが伝わってくる内容だった。自分自身の生き方についても考えることができる有意義な内容だった。

また、「トークショー・パネルディスカッション」の形態で、とても新鮮な印象を受けたとともに、講演内容もとても良かったと思う。

- 子どもを取り巻く大人や教師の在り方を考えさせられる内容でよかった。終始、講師の話に引き込まれた。特に「しんどい時があったからこそ、今の自分がある」という前向きな話に感銘を受けた。

また、一方的な講演形式でなかったことで、講演内容も若年教員も含めて分かりやすいもので、共感する内容が多かった。自分達のやる気も高まった。

さらに、初任者の先生方の生の声や正直な意見が聞けて良かった。藤川さんが上手に2人の意見を引き出してくれていた。

- 夢と希望をテーマにトークショーとパネルディスカッションの形式でお話を聞いたのはおもしろかった。内容も興味深く聞かせていただいた。

さらに、コーディネーターの進行が上手だったので、パネルディスカッションの内容も聞きやすかった。

- 「楽しくなくなったら、舵をきる」「迷った

ら前へ進む」等、人生を生き抜くヒントをいただけた。これからの児童との関わり方について考えることができる内容でした。

また、野球選手が教育講演会でどのような話を聞かせてくれるのだろうと思っていたが、野球で学んだ経験や知識と学校や児童生徒をつなげながら、ご自身の考えを話してくださったので、教師目線ではない話が聞けたことがとても参考になった。

- 言葉巧みで分かりやすく、2時間があっという間に感じられる講演だった。学んだことを日々の授業で取り入れていきたいと思える内容だった。

また、幼少期の話や思い出話も交えながら話してくださり、楽しい時間が過ごせた。夢を言葉に出すことが恥ずかしいという子どももいるが、堂々と語ることは大切だと改めて感じた。

- 「トークショー」「パネルディスカッション」という新しいスタイルで、楽しく話を聞くことができた。藤川さんの野球人生を通しての豊かな経験が伝わる内容で、学校教育の面でも大変勉強になった。

今の子ども達は、いろんなものが見えすぎていて夢を持ちづらいというのが興味深く、いいヒントになりそうです。学校関係者に有益になるよう配慮いただいた語り口で、教える立場にも、子どもの立場にもなって考えられる良いお話でした。

また、2人の先生もパネルディスカッションでの姿が素晴らしく刺激を受けました。

- 多くの経験をされているプロのスポーツ選手から話が聞けてよかった。食べることや勉強の重要性について、家庭でも話す良いきっかけとなった。子ども達にもっと地域のよさを大切に伝えていきたいと思った。

気さくにどんな質問にも答えて下さり、いい雰囲気が進んでいた。日頃から子どもと関わるものとして毎日生き生きと仕事をする事、自分の夢を子どもたちに語ることを目指して頑張りたいと思います。

藤川さんのご厚意で、質問タイムを設けて丁寧に応えていただき、当初の予定より長く貴重な話が聞けたことがよかったです。

- 夢や希望を持って生きることの大切さを学

ぶことができました。

- 阪神の名監督3人の個性を興味深く聞かせていただいた。誰しもができない経験、時々大きな決断をされていて、経験からくるお話は心に響くものがあつた。子どものころの体験の大切さや認めることや認められること、一つひとつを積み重ねていくこと、夢を語る者が夢を与えることができる等、自分の教育実践と重ねながら興味深く聞かせていただいた。

また、「自分でやると決めたことは、自分で言わないと実現しない」や「遊びの中で学んでいった」という言葉が心に残った。スポーツも勉強も「こう教えないといけない。この方法が絶対にいいはず」等、＜やらされ感＞の中で育つと怖いと思った。

遊びの中には常に学びがあり、勉強や実体験があるからこそ、次の学びや遊びが楽しくなるのだなということを藤川さんのお話を通して思った。

- 著名人（トップアスリート）による生の声は心に響いた。子ども達に夢や希望を持たせるためには、経験を積ませることの大切さも含めて、教員の力が必要だと感じさせられた。メッセージ性がありとても分かりやすかったので、教員のみならず、是非子ども達にも聞いてもらいたい内容だった。

また、トークショーやパネルディスカッションの方法を取ることで、最後まで興味を持って聞くことができた。（パネラーの先生たちが上手に話せていて素晴らしかった）

- その道を極めている方の経験から、はっきりとした夢や目標を持つことや自分で決めることの大切さを学び、教育に生かしていけると思う素晴らしい内容を聞けてよかった。（成功体験、苦労体験等、自分自身も共感できる内容でとても良かった。）また、高知県出身で実態を分かっている方がお話をしてくださり、説得力があつた。パネルディスカッションがすごく良かった。パネラーの素直な反応・返しがとても良かった。

- パネルディスカッションはパネラーと藤川さんの意図がうまく噛み合っていなかったように感じた。一定シナリオ的なものを作り、

双方の意図を確認し合う場があるとよい。

- 2部構成の形態は、新鮮でよかったが、パネルディスカッションにする必要はあったのだろうか。
- パネルディスカッション形式は、聞いている側は楽しく参加できたが、パネラーや質問者は一部の学校に負担になっていたのではないか。各校1つずつでも質問を構えておけばよかった。
- パネラーが若手2人だったが、藤川氏と同年代の教員等、年齢、経験層の異なる教員も入れると内容に深まりが出たのでは。
- 藤川さんの講演内容はもちろん、若手教員2人の教育への真摯な姿勢が、中堅・ベテランの刺激となったように思う。

ただ、演題に制約を受け、藤川さんの野球を通じての一般人には経験できないことやそこから得た教訓や人生観等を十分に引き出せていないようにも感じた。思い切って“教育”的要素を押さえても良かったかもしれない。

【その他】

- 席が学校ごとに確保されているのがよかった。また、パネルディスカッションは、教員の話も入り新しい形態でよかったと思います。が、若年教員の同世代2名だけでなく、中堅などの違う世代からもパネラーとして出るとよかったと思います。
- 事前に各校から質問を募集したやり方はよかったし、取り上げていただいた質問内容も良かった。
- 受付で名簿に丸をしなくて良かったので、混み合うことなくスムーズに中に入れたのは良かった。
- 「トークショー」「パネルディスカッション」という形式が良かった。また、濱田さんのコーディネートで、話がスムーズに進み良かった。
- パネリストのお二人の先生方にも感謝です。
- 藤川さんを招聘するにあたり、ご尽力された全ての方々に深く感謝いたします。段取り、準備、片付け等々、ありがとうございました。
また、閉会行事での徳弘校長先生のご挨拶、感動しました。藤川さんも嬉しそうでした。
さらに、中村小・中学校には、校庭の状態が

悪い中にもかかわらず、駐車をさせていただき申し訳なかったです。

- コロナ過で大変な中、運営等お世話になりました。ありがとうございました。
- ディスカッションや質問の時間が多くあったので、聞くだけの講演会でなく、会場が一体となって相互に話をすることができた点がとても良かった。藤川さんと若い先生のパネルディスカッションが良かった。
パネラーとして今回の講演会に参加させていただき、教師としても一人の人間としても、とても大きな経験になった。このような機会を設けていただき本当にありがとうございました。
- 講演会の終了予定時刻と勤務終了時刻とを合わせてもらいたかった。